

国立大学法人高知大学中期目標

平成 28 年 3 月 1 日 文部科学大臣提示

国立大学法人高知大学中期目標原案

| | |
|-----------------------------------|---|
| (前文) 大学の基本的な目標 | 1 |
| ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織 | 1 |
| 1 中期目標の期間 | 1 |
| 2 教育研究組織 | 1 |
| I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 | 2 |
| 1 教育に関する目標 | 2 |
| (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 | 2 |
| (2) 教育の実施体制等に関する目標 | 2 |
| (3) 学生の支援に関する目標 | 2 |
| (4) 入学者選抜に関する目標 | 2 |
| 2 研究に関する目標 | 2 |
| (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 | 2 |
| (2) 研究実施体制等に関する目標 | 2 |
| 3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 | 3 |
| 4 その他の目標 | 3 |
| (1) グローバル化に関する目標 | 3 |
| (2) 附属病院に関する目標 | 3 |
| (3) 附属学校に関する目標 | 3 |
| II 業務運営の改善及び効率化に関する目標 | 3 |
| 1 組織運営の改善に関する目標 | 3 |
| 2 教育研究組織の見直しに関する目標 | 4 |
| 3 事務等の効率化・合理化に関する目標 | 4 |
| III 財務内容の改善に関する目標 | 4 |
| 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標 | 4 |
| 2 経費の抑制に関する目標 | 4 |
| 3 資産の運用管理の改善に関する目標 | 4 |
| IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 | 4 |
| 1 評価の充実に関する目標 | 4 |
| 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標 | 4 |
| V その他業務運営に関する重要目標 | 5 |
| 1 施設設備の整備・活用等に関する目標 | 5 |
| 2 安全管理に関する目標 | 5 |
| 3 法令遵守に関する目標 | 5 |

(前文) 大学の基本的な目標

高知大学は、四国山地から南海トラフに至るまでの地球環境を眼下に収め、「地域から世界へ、世界から地域へ」を標語に、現場主義の精神に立脚し、地域との協働を基盤とした、人と環境が調和のとれた安全・安心で持続可能な社会の構築を志向する総合大学として教育研究活動を展開する。教育では、総合的教養教育を基盤とし、「地域協働」による教育の深化を通して課題解決能力のある専門職業人を養成する。研究では、黒潮圏にある豊かな地域特性を生かした多様な学術研究を展開する。もって、世界と地域を往還する教育・研究の成果を発信し、地域社会・国際社会の発展に寄与する。

そのため、以下の基本目標を掲げる。

1. 教育

総合的教養教育の実現により、各学部・学科等のディプロマ・ポリシーに従いそれぞれの専門性を身に付けるとともに、分野を横断した幅広い知識・考え方等が学生自身の内部で統合され、世の中に働きかける汎用的な能力にできる人材の育成を目標とする。

また高知県にある唯一の国立大学であることを意識し、とりわけ、地域、海洋、防災、医療に関する学際的な教育を本学の特色と位置づけ、グローバルに通用する知識・考え方を教授するとともに地域での実践活動を通じ地域の発展に貢献できる人材育成を目指した「地域協働」による教育を実施する。

2. 研究

地域の活性化を目指した人間社会、海洋、環境、生命を研究の中心におくとともに、大規模災害に備える防災科学を研究目標に掲げる。

また、黒潮圏諸国をはじめとした学内外の研究者間交流を一層促進し、異分野融合研究を推進する。

3. 地域連携とグローバル化

地域課題を組織的かつ機動的に解決するために、域学連携教育研究体制を強化することで、人材育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に資する。これにより、地域に欠くことのできない大学として、地域の振興と地域社会の健全な維持・発展に貢献する。

また、アジア・大洋州等の開発途上国とのつながりを重視し、高知県における地域資源の特徴を生かした国際協力を推進するとともに、それらを教育・研究の場として活用し、実践的で国際的な教育研究による国際貢献を図る。

もって、地域で得られた成果を世界に発信すると同時に、世界の動きを地域に反映させる「グローバル教育・研究」を展開することをグローバル化の基盤に据える。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成 28 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日まで

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表 1 に記載する学部、研究科等及び別表 2 に記載する共同利用・共同研究拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- ①各分野の専門性と分野横断的な幅広い知識・考え方を学びの基礎として習得させたい。社会に働きかける汎用的な力を育成するために「地域協働」による教育を全学的に展開するとともに、国際的な視点からの学びも保証することによって、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成する。【1】

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- ①「地域協働」を核とした教育を推進し、能動的学修の質を保証するための評価手法の開発や実施体制を構築し、教育環境を整備する。【2】
- ②地域の大学間連携を推進し、個々の大学が保有する教育資源を有効活用することにより、学生や地域のニーズに応じた教育内容の充実に取り組み、地域における知の拠点としての機能を強化する。【3】

(3) 学生への支援に関する目標

- ①学生が地域社会に適応し、自律的で充実した大学生活を送ることができるよう、修学及び生活に関する支援、障がいのある学生への支援、キャリア形成や就職活動・インターンシップに関する支援体制を強化する。【4】

(4) 入学者選抜に関する目標

- ①入学者受入方針に基づき、知識偏重の入学者選抜から、受験者の学ぼうとする意欲、主体的に世の中に働きかけようとする態度、協働する力、理解する力、これらを支える高等学校までの学習成果を多面的・総合的に評価する入学者選抜方法に転換し、大学での学修に円滑に接続させる。【5】

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ①地域的特性を生かした研究領域に重点を置き、地域に還元できる研究に取り組むとともに、国内外に向けて高い水準の研究成果を発信する。また、異分野を融合した新しい領域の研究に取り組む。【6】
- ②イノベーションを導く社会的要請の強い課題を解決するための研究を実施し、産学官連携を通じて大学の知の活用を推進し、研究成果を社会に還元する。【7】
- ③地球掘削科学共同利用・共同研究拠点として、国内外の研究機関等と連携して国際水準の研究を推進し、地球掘削科学における拠点機能を充実させる。【8】

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ①優れた研究者を育成するとともに、研究支援体制を強化し、研究活動のマネジメント機能を充実する。また、研究活性化のための重点的な研究資源の配分や、研究機器設備の戦略的整備を推進する。【9】

②地球掘削科学共同利用・共同研究拠点としての運営・支援体制を整備・充実する。【10】

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

①「地域協働」による教育を全学的に展開し、地域の課題解決を担う人材育成と地域貢献を一体的に推進することにより、地域の再生・活性化に貢献する。【11】

②地域再生・課題解決及び雇用創出のため、「高知大学インサイド・コミュニティ・システム（KICS）」において構築したネットワークを活用し、地域社会と連携した全学的な教育・研究・社会貢献活動を行う。【12】

③高知県及び他の高等教育機関等との連携により、地域における知の拠点、交流の拠点、人材育成の拠点としての機能を強化し、地域の発展に貢献する。【13】

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

①我が国と海外諸国に共通する地域の課題解決のための教育研究を促進し、地域の視点から持続可能な社会づくりに資するグローバルな国際連携を推進する。【14】

(2) 附属病院に関する目標

①社会ニーズに呼応した病院機能・運営の強化を図るとともに、地域医療の中核機関の役割を担うため、地域との連携を強化する。【15】

②地域特性に根差し、国際社会にも貢献しうる医師・医学研究者等を養成する。特に、地域医療を担う医師・メディカルスタッフの養成を積極的に行う。【16】

③先端的で特色ある研究を推進し、その研究成果を医療現場に還元するため、先端医療の開発・導入を促進する。【17】

④安定的な経営基盤を確保するため、環境の整備、経営管理指標等を活用した戦略的な経営改善を行う。【18】

(3) 附属学校に関する目標

①大学・学部と連携して、実践力を備えた教員養成や地域の教育課題・学校現場が抱える諸問題の解決に向けた実験的・先導的な教育研究に取り組むとともに、高知県教育委員会と連携しながら、地域のモデル校園としての役割を果たす。【19】

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

①学長のリーダーシップの下で、大学の強みや特色を生かし、社会や地域のニーズに応え、教育、研究、社会貢献の機能を最大化できる体制を構築するため、ガバナンス機能を強化する。【20】

②学長のリーダーシップによる学内資源の配分等を通じ、戦略的・機動的な組織運営を行う。【21】

③優秀な人材を確保するとともに、男女共同参画社会の実現に向けた取組を推進する。【22】

2 教育研究組織の見直しに関する目標

①地域特性等を踏まえ、地域協働、海洋及び防災等の特色ある教育研究内容を取り入れた教育研究組織の見直し・再編成を実施する。【23】

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

①事務職員の能力の開発及び向上を図るとともに、仕事と生活の調和にも配慮し、機能的で機動的な事務組織を編成する。【24】

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

①財政基盤の維持・強化を行うため、既定収入の見直しを行うとともに、外部研究資金、寄附金その他の自己収入を増加させる。【25】

2 経費の抑制に関する目標

①効率的かつ安定的な教育研究活動を維持するため、決算分析を基に全学的な経費節減方策を実施し、経費を抑制するとともに、経営環境や運営費交付金の動向を踏まえ人件費改革を行う。【26】

3 資産の運用管理の改善に関する目標

①大学が保有する資産の効率的な運用を行うことにより収入を確保する。【27】

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

①教育研究のさらなる質の向上のため、自己点検・評価結果の分析を通じ評価方法をデータに基づき改善する。【28】

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

①教育研究活動や社会貢献活動等を積極的かつ効果的に情報発信することにより、「地域の大学」としてのブランド力を高める。【29】

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ①施設マネジメントによる既存施設の有効活用や、計画的な維持管理，教育・研究・診療の施設整備を行う。【30】

2 安全管理に関する目標

- ①危機管理体制の充実，大規模災害に備えた対策の強化などにより，安心して教育・研究に専念できる環境を整備する。【31】

3 法令遵守に関する目標

- ①内部統制システムに基づいたコンプライアンス，情報管理，危機管理などの取組を通じ，適正な教育研究活動を推進するとともに，業務の有効性及び効率性，法令遵守，資産の保全，財務報告等の信頼性を確保する。【32】

別表 1 (学部・研究科等)

| | |
|-----|---|
| 学部 | 人文学部 (H28 募集停止) 人文社会科学部 教育学部 理学部 医学部 農学部 (H28 募集停止) 農林海洋科学部 地域協働学部 |
| 研究科 | 総合人間自然科学研究科 |

注) 愛媛大学大学院連合農学研究科の参加校である。

別表 2 (共同利用・共同研究拠点)

| |
|--------------|
| 海洋コア総合研究センター |
|--------------|